

《研究ノート》

社会調査教育におけるワーディング実験

The Wording Experiment in the Course of Social Research Methods

朝岡 誠 Makoto Asaoka

When conducting a questionnaire survey, it is known that the results of the investigation will vary substantially according to the phrasing and wording of the questions. Hence, wording is one of the most important disciplines taught in social research methods and many teaching methods exist for it. This paper will introduce a wording experiment that is to be implemented in two classes at Rikkyo University in 2015. I have designed two sets of questionnaires on the use of smartphones; they involve six topics (influence of difficult word to understand, influence of stereotyped word, yes-tendency, difference between impersonalized and personalized questions, inadequacy of double-barreled questions, carry-over effect). The students in class will then undergo the wording experiment, and an explanation regarding the aspects of wording will be provided in the following week based on the tabulation results of the wording experiment.

Key words: Social Research Methods, Questionnaire Survey, Wording Experiment

キーワード：社会調査法, 質問紙調査, ワーディング実験

I はじめに

社会の高度産業化にともない、社会調査は社会学の1手法にとどまらず、複雑な現代社会を読み解くために必要なツールとなりつつある。しかし、谷岡(2000)も指摘するように、社会調査の技法はマス・コミや官公庁、場合によっては学術の現場においてしばしば誤用されているのが現状である。そこで、社会調査協会では社会調査綱領をもうけ、社会調査の技法にカリキュラムを設定し、カリキュラムに対応した授業科目単位を取得している学生に社会調査士資格を与えている。これら社会調査士のカリキュラムの中でも本稿で取り扱うワーディングは調査を設計する際に必要不可欠なものであり、カリキュラム認定の際に必須の要素となっている(社会調査協会 2013)。ワーディングとは質問文の言い回しのことであり、質問文の微妙な言い回しによって調査の結果が大きくことなることはよく知られたことである(鈴木 1995)。ワーディングがどのような効果をもたらすのかを学生に体感させるためにワーディング上間違った質問文と正しい質問文を混ぜたワーディング実験は社会調査実習をはじめさまざまな場面で用いられている(安田・原 1982, 原・海野 2004, 平松 2011)。本稿では筆者が立教大学内で行ったワーディング実験の概要と結果を報告し、ワーディング実験を100名以上が受講する社会調査法の授業で行う意義について考える。

II ワーディング実験の概要

原・海野(2004)、平松(2011)を参考にスマートフォン利用に関する質問項目を作成し、実験群と統制群をA票とB票それぞれに振り分けた。ワーディング実験の対象は立教大学法学部『社会調査法』(前期火曜2コマ, 受講生327名, 1年生対象)と同経済学部『統計調査論2』(後期火曜4コマ, 受講生185名, 2年生以上対象)であり、ワーディングについて取り扱う前の週に調査を行った¹⁾。

法学部の授業ではShared Questionnaire Systemを使ってマークシート形式の質問票に変換し、A票・B票それぞれ180票印刷し、2015年6月12日の授業中に大教室の左側に座っていた学生にA票を、右側に座っていた学生にB票を配布した。授業後A票・B票そ

それぞれ 127 票, B 票 122 票回収した (回収率 88%) .

コンピューター教室が使える経済学部の授業では, google フォームにて調査票を作成した. 合計 4 ページの調査票を作成し, 1 ページ目で回答者の誕生日を尋ねて誕生日が奇数の回答者は A 票の質問文が記載されている 2 ページに移動し, 誕生日が偶数の回答者には B 票の質問文が記載される 3 ページに移動し, それぞれの回答が終了したら 4 ページに移動するように設定した². 2015 年 10 月 20 日の授業中に課題の一環として調査を行い, A 票を 79 票, B 票を 71 票回収した (回収率 94%) .

III ワーディング実験の結果

ワーディング実験後, 集計してワーディングの事例として翌週の授業で結果を発表した (法学部: 2015 年 6 月 19 日, 経済学部: 2015 年 10 月 27 日). ここから各ワーディング実験の結果を授業内で発表した順番で記していく.

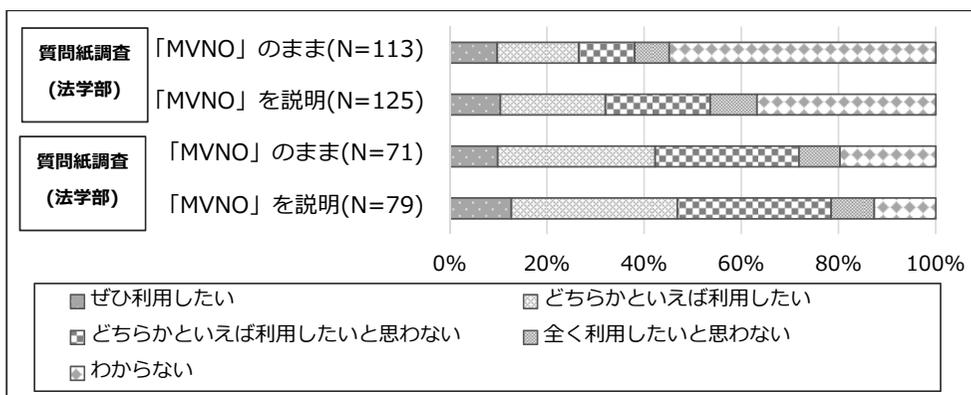
(1) 難しい言葉

難しい言葉を含んだ質問をおこなった場合, 「わからない」という回答が増加するのはもちろん, その言葉をイメージから解釈して回答することが予想される. 安田 (1967) のワーディング実験では原子力商船「サバンナ号」を難しい言葉として, サバンナ号の日本への入港を受諾するべきかどうかを質問した後に, サバンナ号が何なのかについて尋ねている. その結果, サバンナ号のことを原子力潜水艦だと誤解した回答者は入港に受諾するべきではないと回答する傾向があり, サバンナ号を正しく原子力商船であると考えた回答者は入港を受諾するべきであると答える傾向があった.

本稿のワーディング実験では, MVNO (仮想移動体通信移動者) を分かりやすく説明した質問文と MVNO をそのままにした質問文をそれぞれ A 票と B 票に用いてその回答傾向の違いを検証した³.

A 票: あなたはビックカメラなどの家電量販店が通信会社の電波を大量購入し, 独自規格の SIM と端末をセット販売する低額通信サービスを利用したいと思いますか. あなたの意見に最も近いものを 1 つ選んでください.

B 票: あなたは MVNO (仮想移動体通信事業者) が提供する低額通信サービスを利用したいと思いますか. あなたの意見に最も近いものを 1 つ選んでください.



図表 1: 難しい言葉

図表 1 は A 票の結果と B 票の結果を授業別にそれぞれ集計したものである. この図で示されているように質問紙調査で尋ねた方が分からないと回答する傾向がみられた.

MVNO をきちんと説明した結果でも 20%ポイント以上の違いがあることから、調査法や族籍の違いに起因するものと思われる⁴⁾。調査法の授業でワーディング実験を行う際には留意しておいた方がよいであろう。なお、法学部では利用した質問文と回答結果の間に 10%水準で有意差がみられ ($df4, \chi^2=9.05$)、経済学部では有意差は見られなかった ($df4, \chi^2=1.52$)。図表 1 をみると、MVNO を説明している場合利用に対して消極的な傾向があるようにみえるが、利用した質問文と「わからない」を除く回答結果の間には有意差は見られなかった ($df3, \chi^2=1.29$)。

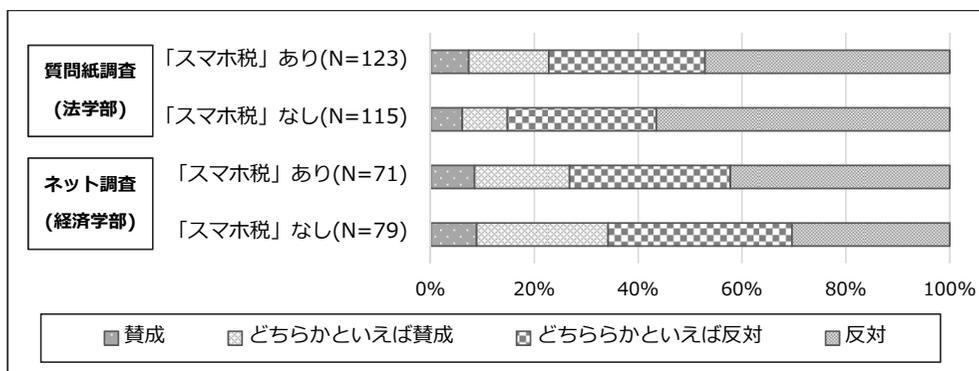
(2) ステレオタイプをふくむ言葉

ステレオタイプとは、本来の意味内容のほかに特別な価値的ニュアンスを持っている単語のことであり (安田 1967)、「天下り」、「戦前教育」や「公共事業」など政治的価値を含む言葉を使うと、その言葉にひきずられて回答がゆがんでしまうとされている。ただし同じ単語であっても、その言葉にプラスの価値を見出す人もいれば、マイナスな価値を見出す人もいる。また、価値的ニュアンスが全くない言葉などないため、ステレオタイプがない「政治的に中立的」な質問文とは難しい。

本稿のワーディング実験では、2014 年の 7 月に一時話題となった「スマホ税」をネガティブなステレオタイプを含む言葉と定義し、「スマホ税」という表現を用いた質問文と「スマホ税」という言葉を用いない質問文を A 票と B 票に用いてその回答傾向の違いを検証した。

A 票：現在政府は、法人税の減税分を補うために、携帯電話の電波利用に対して毎月数百円ほどの税金を課すことを考えています。このことについてあなたの意見に最も近いものを 1 つ選んでください。

B 票：現在政府は、法人税の減税分を補うために、携帯電話に対して毎月数百円ほどの税金を課す「スマホ税」を導入しようと考えています。あなたの意見に最も近いものを 1 つ選んでください。



図表 2: ステレオタイプを含む言葉

図表 2 は A 票の結果と B 票の結果を授業別にそれぞれ集計したものである。この図で示されているように法学部で行った実験と経済学部で行った実験では真逆の傾向が見られた。経済学部で行った実験では、こちらの法学部で行った実験では「スマホ税」という言葉を使わないで「中立的」な表現を使った方が反対の立場をとる傾向がある⁵⁾。

これは調査法による違いではなく、対象者の属性に起因するものと思われる。法学部の学生の場合、「スマホ税」という表現よりも A 票「携帯電話の電波利用に対して税金を課す」という表現に電波利用の公共性という観点から刺激を受けたのかもしれない。ステレ

オタイプを含む質問を使ったワーディング実験を行なう際には学生の専門にも気を配った方がよいだろう。

(3) イエス・テンデンシー

イエス・テンデンシーとは、1つの意見についての賛否を尋ねると、「はい」と答える傾向のことを指す。したがって、ある意見の賛否について尋ねる際には1つの論点だけでなく、その意見に対抗する論点を合わせて両方併記するとよいといわれている(大谷ら 2005)。

安田(1967)は「マス・コミの力によって世論を一定の方向に向けることができるという意見があります。あなたはこの意見に賛成ですか反対ですか」と「マス・コミがどうあやつっても世論を左右することは出来ないという意見があります。あなたはこの意見に賛成ですか反対ですか」という2つ質問に対してどちらに対しても「はい」と答える傾向についてワーディング実験を行っているが⁶、本稿のワーディング実験では、1つの意見だけ提示した質問文と2つの真逆の意見を提示した場合の回答傾向の違いを検証した。

A票: ネット上で多数派工作することで世論を一定の方向に向けることができるという意見があります。あなたはこの意見に賛成ですか、反対ですか。次のうちからあなたの意見に最も近いものを1つ選んでください。

[賛成 / (どちらかといえば賛成) / (どちらかといえば反対) / 反対]

B票: ネット上の多数派工作と世論について2つの意見があります。

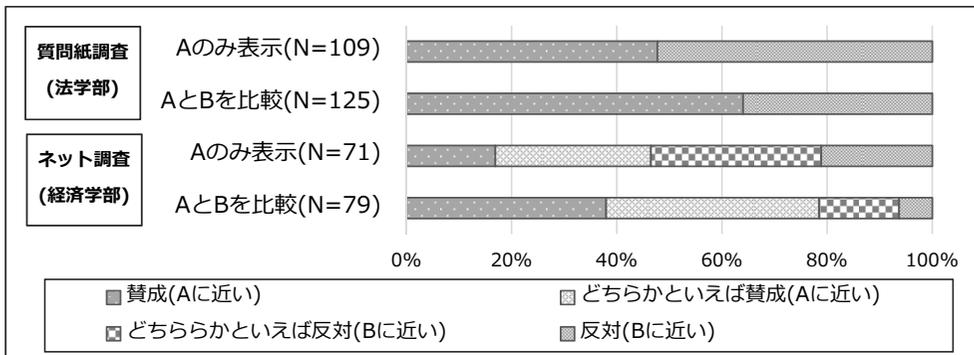
A: ネットの多数派工作によって世論を一定の方向に向けることができる

B: ネットの多数派工作によって世論を操作できるとはいえない

あなたの意見はどちらの意見に近いですか。あなたの意見に最も近いものを1つ選んでください。

[Aの意見に近い / (どちらかといえばAの意見に近い) / (どちらかといえばBの意見に近い) / Bの意見に近い]

なお、法学部では二者択一で尋ねたため、カッコで囲んだ選択肢は使用していない⁷。



図表3: 黙従傾向

図表3はA票の結果とB票の結果を授業別にそれぞれ集計したものである。この図で示されているように、法学部と経済学部で同様の結果となった。Aのみ表示した場合、Aの意見の賛否はほぼ五分であったが、Aと真逆のBと並べた場合、Aに賛成する傾向が高くなっており、ワーディングによって結果が変わるといってもよいだろう(法学部: $df1, \chi^2=6.29$, 経済学部: $df3, \chi^2=18.1$)。大谷ら(2005)は2つの異なる意見を対比させることで「中立的な」意見を得ることができると指摘しているの、この意見に従えば「ネットの多数派工作によって世論を一定の方向に向けることができる」という質問文には「そうかもしれ

ない」と思わせるイエス・テンデンシーではなくて、「そんなわけがない」と思わせるノー・テンデンシーといった効果があると考えられることができるが、今回のワーディング実験だけで判断することは難しい。今後のワーディング実験ではBの意見のみとAとBの両方で比較や学生の世論形成観を知るための質問を追加して検討するべきである。

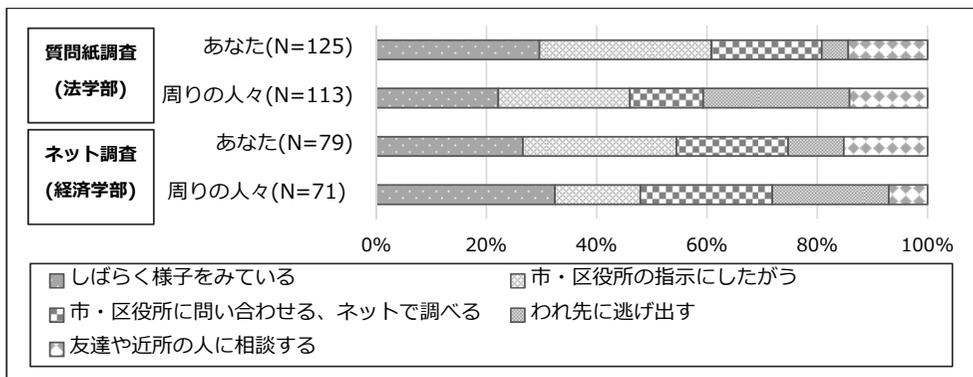
(4) インパーソナルな質問とパーソナルな質問

態度について質問を行なう際、一般論として尋ねた場合と回答者自身としてはどう思うかと尋ねるのでは大きく結果が異なることが知られている。前者はインパーソナルな質問とよばれ、後者はパーソナルな質問とよばれている。

朝日新聞(1981)は、安部北夫らのグループが主婦を対象にした調査を紹介し、「あなたはー」と聞くのと「他の人はー」と聞くのでは結果が大きく違うことを報じている。調査はデパートで地震や火事にあったらどうするかを尋ねたものであるが、「あなたはー」で尋ねると大半の人は冷静に行動すると回答しておきながら、「まわりの人はー」パニックを起こすだろうと答えている(平松 2011)。本稿のワーディング実験もこの質問文にならない、「あなたはー」と「周りの人々はー」で別々の質問文を作成し、回答傾向の違いを検証した。

A票：災害時に自分の家の周りで火災がおき、twitter上で「有害ガスが発生している」との情報が出た。その時、あなたの周りの人びとはどのような行動を取ると思いますか。次のうちからあなたの意見に最も近いものを1つ選んでください。

B票：災害時に自分の家の周りで火災がおき、twitter上で「有害ガスが発生している」との情報が出た。その時、あなたはどのような行動を取ると思いますか。次のうちからあなたの意見に最も近いものを1つ選んでください。



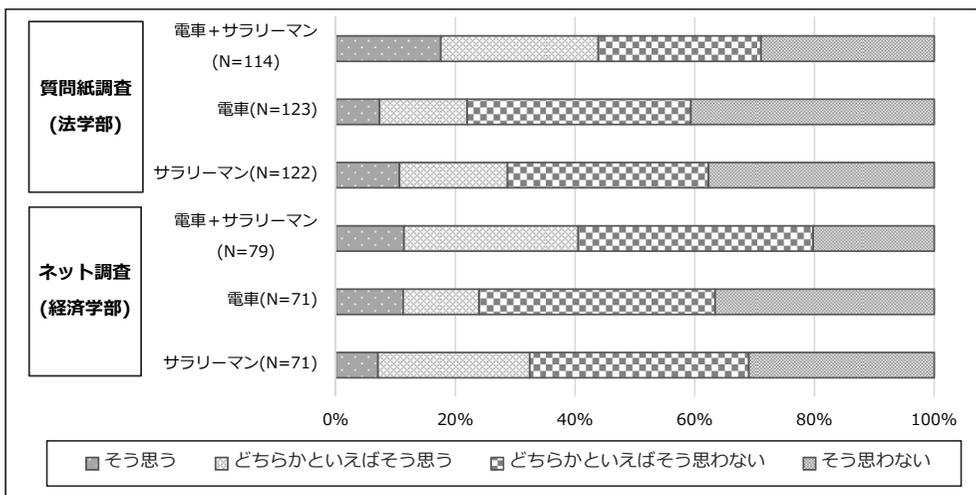
図表 4：パーソナルな質問とインパーソナルな質問

図表 4 は A 票の結果と B 票の結果を授業別にそれぞれ集計したものである。この図で示されているように、「あなたはー」で尋ねた場合は法学部と経済学部で同様の結果となったが、「周りの人々はー」で尋ねた場合では傾向が少し違うようである。「われ先に逃げ出す」と回答する割合は同じ 2 割程度であるが、法学部の学生は「市・区役所の指示にしたがう」や「友人や近所の人に相談する」といった回答が多いが、経済学部の学生は「しばらく様子を見ている」や「市・区役所に問い合わせる、ネットで調べる」といった回答が多いようである。これは法学部の学生が新入生であることを考えれば納得できる回答ではないかと思われる。いずれにせよ、「あなたはー」と尋ねた場合と「周りの人々ー」で尋ねた場合では結果が大きく違う(法学部：df4, $\chi^2=8.40$, 経済学部：df4, $\chi^2=22.6$) のでワーディング実験の際に結果が出やすいトピックであるといえるだろう。

(5) ダブルバーレル質問

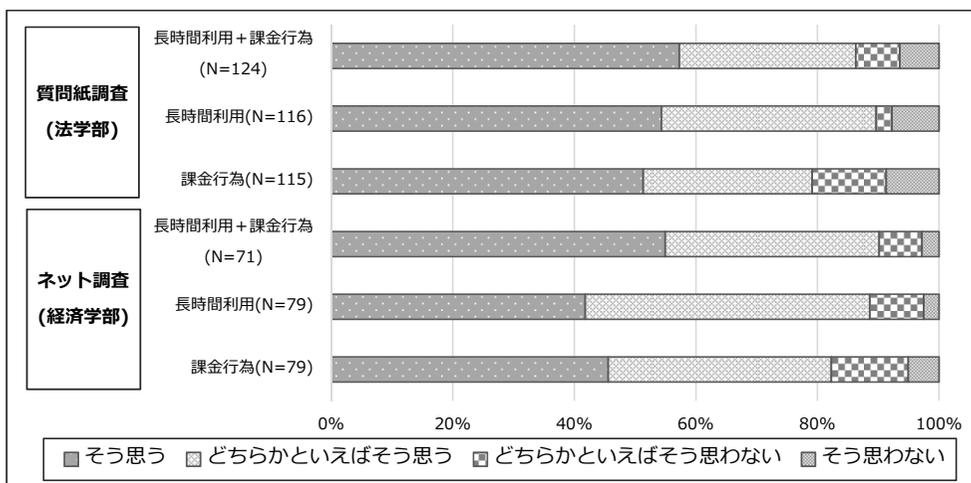
ダブルバーレル質問とは、2つの論点を含んでいる質問のことをさす。安田（1967）・盛山（2004）によるとダブルバーレルには2つのタイプのものであり、1つは「あなたはサークル活動や大学の授業に対して一生懸命取り組んでいますか」という質問のように、「サークル活動」と「大学の授業」の2つの論点があるものである。もう1つは「若い女性の喫煙ははしたないのでやめた方がいいと思いますか」という質問のように片方の論点（はしたない）がもう一方の論点（若い女性の喫煙）の理由となっているものであるが、本稿のワーディング実験では前者のみを扱い、ダミーの質問を尋ねた後に2つのダブルバーレル質問を行うように設定した⁸。

- A 票 (1) ゲームアプリの利用は友人関係を維持するために必要である
 (2) 電車内でスマホを使ってゲームをしているサラリーマンはみっともない
 (3) ゲームアプリの長時間利用は日常生活に支障が出る
 (4) ゲームアプリへの課金行為は日常生活に支障が出る
- B 票 (1) ゲームアプリの利用は友人関係を維持するために必要である
 (2) 電車内でスマホを使ってゲームをすることはみっともない
 (3) スマホを使ってゲームをしているサラリーマンはみっともない
 (4) ゲームアプリの長時間利用や課金行為は日常生活に支障が出る



図表 5: ダブルバーレル質問（電車内でゲームをするサラリーマン）

図表 5 は電車内でアプリゲームを行うサラリーマンについて尋ねた結果を学部別に集計したものであり、次頁図表 6 はゲームアプリの長時間利用や課金行為について尋ねた結果を学部別に集計したものである。「電車」、「サラリーマン」それぞれの論点で尋ねた場合、それぞれ 2 割、3 割ほどの回答者が「そう思う」、「どちらかといえばそう思う」と答えているが、ダブルバーレルにして尋ねた結果、5 割ほどの回答者がこの意見に対して賛成の立場をとっている。傾向だけみると、このダブルバーレル質問に肯定的な回答は「電車」、「サラリーマン」のどちらか 1 つに肯定的である場合に生じているのではないと思われる。そして「ゲームアプリの長時間利用や課金行為」については「長時間利用」の論点に引張られているように思われるが、今回のワーディング実験の結果だけでは判断することは難しい。



図表 6: ダブルバーレル質問 (ゲームアプリの長時間利用や課金行為)

(6) 「上げて落とす」質問文と「落として上げる」質問文

同じ質問内容であっても、文章の順番によって結果が大きく変わるのが知られているが、日本語で「A だけど B」というような文章を書いた場合、A ではなく B の方に着目しやすいことが知られている。

A, B 二つのタイプの課長がいたとします。あなたはどちらの課長の下で働きたいと思いますか。
 A 規則を曲げてまで無理な仕事をさせることはありませんが、仕事以外のことでは人のめんどろは見ません。
 B 時には規則をまげて無理な仕事をさせることもあります、仕事以外のことでも人のめんどろをよく見ます。

(『日本人の国民性調査より』)

『日本人の国民性調査』では上の質問文を用いて理想の上司を尋ねており、A タイプの課長を選ぶ人が 12% で B タイプの課長を選ぶ人が 81% であり、日本人は B タイプの人情課長を好むといわれているが、A と B の文章をよくみても A は長所を述べた後で短所を述べる「上げて落とす」型、B は短所を述べた後で長所を述べる「落として上げる」型の文章になっている。そこで林 (1984) はワーディングによって人情課長が支持されているのではないかと考え、A と B の文章の前後を入れ替えて理想の上司について調査をした。その結果 A タイプの課長を選ぶ人が 48%、B タイプの課長を選ぶ人が 47% と結果が大きく変わった。そこで本稿のワーディング実験でも林の調査にならない、以下のような質問項目を用意して長所と短所の並べ方の効果を計測した。

A 票: A, B 2 人のタイプのネットコミュニティがあります。あなたはどちらのタイプのコミュニティに属したいと思いますか

A: あなたの個人的な相談にはのってくれませんが、深夜すぎに連絡してくることはありません。

B: あなたの個人的な相談をきちんと聞いてくれますが、時には深夜すぎに連絡してきます。

あなたの所属したいグループは A と B のどちらですか? あなたの意見に近い方を 1 つ選んでください

B票：A, B 2人のタイプのネットコミュニティがあります。あなたはどちらのタイプのコミュニティに属したいと思いますか

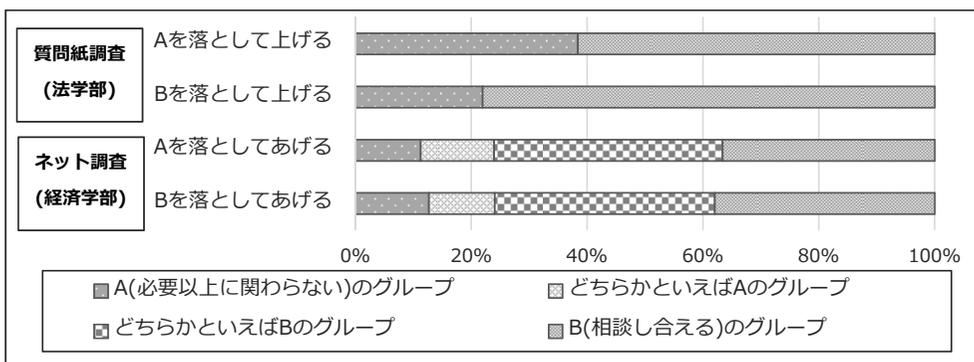
A：深夜すぎに連絡してくることはありませんが、あなたの個人的な相談にはのってくれませ

ん。
B：時には深夜すぎに連絡してくるがありますが、あなたの個人的な相談をきちんと聞いてくれます。

あなたの所属したいグループはAとBのどちらですか？あなたの意見に近い方を1つ選んでください

[Aのグループ / (どちらかといえばAのグループ) / (どちらかといえばBのグループ) / Bのグループ]

なお、法学部では二者択一で尋ねたため、カッコで囲んだ選択肢は使用していない。



図表 7: 「上げて落とす」質問文

図表 7はA票の結果とB票の結果を授業別にそれぞれ集計したものである。この図をみて分かるように、法学部ではBのコミュニティの方が人気であるものの、ワーディングの違いによる効果がみられ ($df1, \chi^2=7.58$)、「落として上げる」文章で提示をすると支持されやすくなる傾向があることが分かった。ただし、経済学部ではワーディングの違いによる効果がみられなかった ($df3, \chi^2=0.15$)。これは法学部の受講生の大半が新生であり、まだサークルをはじめとした大学内での人間関係が形成できていないため、必要以上に関わらないグループにも選考の余地があったが、大学生活に慣れた経済学部の受講生にとっては選考の余地がなかったからであると思われる。

IV 授業後の反応

以上6項目を授業中に発表し、「ワーディングに騙されないようにするためには騙す方法を考えよう」ということで授業内の事例をアレンジして悪いワーディングと修正案についてコメントペーパーで提出させた。最も引用された事例は「上げて落とす」質問文と「落として上げる」質問文の事例であった。また、学生からのコメントを見る限り、「なにげなく答えた調査票にこのようなギミックが隠されていたとは驚いた」などインパクトはあったみたいであり、安田(1967)・平松(2011)らの事例を参考に簡便に作成したワーディング実験であったが成功であったといえるだろう。今回はワーディング実験を行った結果を記述するだけに留め、ワーディング実験と「相性がよい」事例の紹介となったが、来年度は本稿で見られたノーテンデンシー現象などを解明できるように調査設計を行う予定である。

注

- 1) 本来ならば社会調査法について全く知識がない第1回の授業で行うべきであるが、ワーディング実験の内容を覚えているうちに教授しなかったので直近に行った。
- 2) 学生に怪しまれないように、この日の授業で誕生日と精神疾患の関連について取り扱い、誕生日とスマートフォン依存について調査するとフェイクの調査目的を伝えた。このウェブ調査ではスマートフォンの利用時間やスマートフォン依存についても調査を行い、誕生日との関連について分析したが、誕生日とこれらの変数の間に統計的な関連はみられなかった。
- 3) 安田(1967)と比較するのであればMVNOが何のことなのかを自由回答で尋ねるべきであるが、法学部の授業では質問紙のスペースの関係上オミットした。経済学部の授業ではインターネットで検索されてしまうおそれがあるため、あえて正しい意味について尋ねなかった。
- 4) 法学部、経済学部ともに無記名で行ったが、経済学部では課題の一環にしたことが起因したのかもしれない。
- 5) ただし法学部、経済学部ともに有意差は見られなかった(法学部: $df3$, $\chi^2=3.40$, 経済学部: $df3$, $\chi^2=2.53$)。
- 6) 安田(1967)はある意見に対して全く裏返しの質問文を作成することが難しい点などから、ワーディング実験はイエス・テンデンスの検出に向かないことを示唆している。
- 7) 先に示す「ノー・テンデンス」ともいえる現象は二者択一方式で尋ねたことで生じたと考え、それを検証するために経済学部のワーディング実験では二者択一から四点法に変更した。
- 8) ワーディング実験において、ダブルバーレル質問を検証するためには、ダブルバーレル質問になっているものとそれぞれの論点を含んだ質問の3つを同一の質問文に含む必要がある(原・海野 2004)。だが今回のワーディング実験は他記式調査ではなく、自記式調査であるため、ダブルバーレル質問とそれぞれの論点を含んだ質問を並列させなかった。

参考文献

- 朝日新聞, 1981, 「デパートで地震・火事… 本当にあわてない?」, 1981年8月15日.
- 原純輔, 海野道郎, 2004, 『社会調査演習』東京大学出版会.
- 林知己夫, 1984, 『調査の科学』講談社.
- 平松貞実, 2011, 『事例で読む社会調査入門』新曜社.
- 大谷信介, 後藤範章, 小松洋, 木下栄二, 2013, 『新・社会調査へのアプローチ—論理と方法』ミネルヴァ書房.
- 盛山和夫, 2004, 『社会調査法入門』有斐閣.
- 鈴木達三, 1995, 「調査法に関する一考察— 質問の順や文脈, 前後関係による影響」 ESTRELA 16 : 8-15.
- 社会調査協会, 2013, 「社会調査士科目認定に関わる確認項目」 (<http://jasr.or.jp/documents/b-1-0.pdf>).
- 谷岡一郎, 2000, 『「社会調査」のウソーリサーチ・リテラシーのすすめ』文春新書.
- 安田三郎, 1967, 「質問紙のワーディング実験」社会学評論 17 (2) : 58-73.
- 安田三郎, 原純輔, 1982, 『社会調査ハンドブック』有斐閣双書.